

令和7年度高知県立農業大学校評価表

外部評価 R8年3月17日 (内部評価 R8年3月5日)

【 A : 100%以上 B : 100%未満 80%以上 C : 80%未満 60%以上 D : 60%未満 】

評価項目	課題	目標	具体的方策	具体的目標	実績 (内部評価)	内部評価	外部評価	外部評価	次年度の対応
1 魅 力 あ る 学 校 づ り (1) 学 生 の 確 保	令和7年度 在籍者は定員 の55% ■入校者は60% ○農業系高校と の連携強化	○定員充 足率の 向上	○オープンキャンパス開催 ・WEBによる申込みを追加 ○ホームページの更新 ○SNSによる情報発信 ○パンフレット配布 (高校、 JA、行政) ○JA、市町村等広報誌 への入校案内掲載 ○学校訪問の実施 (県 立、私立高校等) ○高校進路ガイダンスの参加 ○学校見学受入	●定員充足率 80% ■入校者 40名 (133%) うち女性 12人 (120%) ※ () は R7年入校者実績比 ○オープンキャンパス： 4回/年、延べ 100人 ○ホームページ閲覧 100,000ビュー数 ○SNS 発信回数 110回 (R6 : 37回) ○パンフレット配布 学校案内 1,400部、ポ スター150部 ○全 JA、市町村等広報誌 への掲載 ○学校訪問数 50校 (R6 : 50校) ○参加校数 17校 (R6 : 15校) ○受入校数 8校 (R6 : 4校)	●定員充足率 54% ■入校者予定者 27名 (目標比 68%) 《前年度比 90%》 うち女性 7人 (目標比 58%) 《前年度比 64%》 ※入校予定者は推薦と一般前期・後期 試験の 合算値 ○オープンキャンパス：延べ 59人 (1~3回) (目標比 59%) 《前年度比 78%》 ※第4回 3/20 開催予定 ○QR方式による申込、参加者アンケート ○ホームページ： ○ホームページ改修 (R8.3月) 閲覧 55,149ビュー数※R8.2月時点 (目標比 55%) 《前年度比 94%》 ○SAWACHI ニュース情報発信 17回 ○SNS 発信回数 84テーマ 172回 ※R8.2月時点 (目標比 156%) 《前年度比 465%》 ○パンフレット配布： ・学校案内 1,402部、ポスター59部 ○おはよう高知：農大紹介 2/1 放送 ○JA 広報誌「こうぐり」(8,1月号)、県政広 報紙「さん SUN 高知」(8,10,1月号) ○学校訪問数：55校 (延べ 99校) ○参加校数：延べ 19校 3/1 時点 参加者延べ 167名 // ○受入校数：4校 (高知農業、幡多農 業、須崎総合、吾北分校)、個別対応 3 回 3名 【評価】 ●参加者アンケートから「寮生活が不安」との 回答が多かったため、寮生活の SNS 配信 をするとともに、オープンキャンパスでの説明 を追加するなどに取り組めた。 ●元気な農大生の日常を知ってもらうため、 SNS 配信を強化した。 ●学校訪問は、全日制高校に加えて定時制・ 通信制高校も訪問した。 【課題】 ●農大 SNS の認知度向上が必要 (よく見る 9%、たまに見る 15%、見たことは ある 29%、見たことがない 47%) ※オープンキャンパス参加アンケートより ●デジタルとアナログを組み合わせた取組を拡 充したが、入校予定者は前年より減少し た。(R7年 30名 ⇒ R8年 27名)	C	○学生確保に向けて 新たな取り組みもさ れている。 ○農家が減少してい る中で、非農家出身 の学生確保にも取り 組んでいる。 ○高知は良いものや美 味しいものを作ってい る県なので、その魅 力なども発信する取 組をしてはどうか。 ○農業高校などでは農 大への進学も強く取 り組んでいるので、今 まで以上に連携した 取り組みをお願いし たい。	C	○オープンキャンパス参加 者増加に向けた内容の 充実 ○継続して学校訪問や 高校進路ガイダンスへの 参加 ○情報発信の強化 ・HPや SNS による情報 発信の増加や内容の 充実 ・パンフレットの内容充実

評価項目	課題	目標	具体的方策	具体的目標	実績 (内部評価)	内部評価	外部評価	外部評価	次年度の対応
(2) カリキュラムの充実	○学生のキャリアパスが多様化 ○学びの機会を提供	○時代のニーズにマッチした教育内容の充実 ○G-GAP 認証の継続取得 ○全品目で GAP の考え方を実践 ○聴講制度の整備	○専門科目の充実 ○スマート農業実践(ICT等活用) ○進路希望別カリキュラム実施 ○販売実習の実施 ○G-GAP 認証に向けた実践教育 ・「GAP」講義の実施 ・適正な生産工程管理の実施、チェックリストの作成、内部評価 ○基礎的知識・技術及び先進的技術の習得機会確保	○6次産業化実習(60hr) ○大型特殊免許(農耕車限定)受験者全員合格 ○スマート農業(15hr) ○キャリア形成演習(1年生33時間) 進学対策(2年生15時間) 英語特別講義(2年生15時間) 危険物・毒劇物(2年生9時間) ○農大ショップ、日曜市での販売実習 ○G-GAPの継続取得 ○聴講科目の設定9科目(植物生理、植物病理学、スマート農業、土壌肥料学、生物工学、IPM、化学基礎、物理基礎、園芸各論)	○6次産業化実習(30hr) ○選択授業(乳製品加工、フラワー装飾他(12科目計207hr)) ○大型特殊免許(農耕車限定)5/6名合格 ○スマート農業(15hr) ○キャリア形成演習(1年生33時間) 進学対策(2年生15時間) 英語特別講義(2年生15時間) 危険物・毒劇物(2年生75時間) ○農大ショップ(9/18、10/2、2/26)日曜日(8/31、9/7)緑の週間(4/19)いの町健康まつり(10/26)農業教育フェア(12/13)カワカミ(12/20)農技センター公開DAY(1/17) ○G-GAP継続取得 「GAP」講義実施、リスクの洗い出し 出荷調製室等の清掃(週3回) 内部検査(11/4)、認定審査(11/14) 是正措置の確認・報告(11/28)、 認証(12/14) ○聴講科目の設定20科目 植物生理Ⅰ・Ⅱ、植物病理学Ⅰ・Ⅱ、スマート農業、土壌肥料学、生物工学、IPM、化学基礎、物理基礎、化学概論、危険物性質消火、危険物法規、毒劇物法令、毒劇物実地、家畜飼養管理学、家畜繁殖学、家畜育種学、家畜栄養学Ⅰ・Ⅱ ※受講者2名、4科目 【評価】 ●資格取得支援のほか、魅力あるカリキュラムづくりができています。 【課題】 ●外部講師の選定・調整が難しくなっている。	B		B	○専門科目の充実(農産物加工、ガーデニングなど)

評価項目	課題	目標	具体的対策	具体的目標	実績 (内部評価)		外部評価	外部評価	次年度の対応
					内部評価	外部評価			
(3) 社会 人力の 養成	<ul style="list-style-type: none"> ○社会人としての意識向上 ○コミュニケーション能力の向上 ○多様な学生への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ○社会人として行動・実践できる人材育成 ○現状把握と対応策の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○入校時の生活指導 ○日常的な授業・生活指導 ○寮の部屋替え ○臨床心理士によるメンタル面のカウンセリング実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○社会人としてのルール、マナーを守る学生の育成 ○人権・コミュニケーション能力向上 ○新危機管理能力の向上 ○メンタル面のカウンセリング結果を教員間で情報共有、指導能力向上 <p>※教務係、教官が連携し、社会人としてのマナーや多様な学生対応について指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○入校時に指導、随時指導実施中 ○寮の部屋替え（10→9月） ○授業・生活指導実施中 ○救急法・災害避難・避難所開設訓練、起震車訓練 4月 ○メンタルカウンセリング ・1年生 27名：7/14～25 <p>【評価】 ●学生個々の状況について、臨床心理士・舎監・職員などで共有して指導教育できている。</p> <p>【課題】 ●インターンシップや先進農家等留学研修に適応できていない学生もいるため、学生に合った対応が必要である。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学生のコミュニケーション能力を向上させる取り組みなどがしっかりできている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○メンタルカウンセリングの強化（2年生を追加）
2 専門 性の 向上 (1) オランダとの 交流	<ul style="list-style-type: none"> ○レンティス校との交流維持 	<ul style="list-style-type: none"> ○国際的な感覚を備えた人材の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○オランダ・レンティス校学生の受入（約10日間） ○英会話能力の向上（特別講義） ○オランダへの派遣研修（短期研修約10日間） 	<ul style="list-style-type: none"> ○学生数名、引率教官：受入時期4月下旬 ○特別講義5回、15時間 ○希望学生（2年生）、引率教官 時期：8月末～9月上旬 	<ul style="list-style-type: none"> ○学生6名引率教官2名受入 5/9～19（11日間） ・歓迎会5/12、校内ほ場案内5/12、産地視察5/13・15・19、スポーツ交流5/14、調理交流5/16、ホームステイ5/16～18 ○特別講義：7月（5回15時間）、対象2年生3名 ○派遣研修：10/11～18、2年生3名、引率教官1名 ○校内報告会開催12/9 <p>【評価】 ●継続して交流できている。 ●SNSで情報発信もできている。 ●国際的な感覚を備えた学生の育成に繋がっている。</p> <p>【課題】 ●オランダ派遣研修の参加者確保（R6年6人⇒R7年3人） ●レンティス校からの来高が当面の間中止となった。（オランダ側の農大生の受入れは継続される）</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ○グローバルな感覚を磨くことができる良い機会となっている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○オランダへの派遣研修参加学生の増加

評価項目	課題	目標	具体的対策	具体的目標	実績 (内部評価)		外部評価		
					内部評価	外部評価			
(2) プロジェクト活動の強化	○課題解決のための計画、実行、分析能力の向上	○卒業審査全員合格 ○次世代ハウスを活用したプロジェクトの実施2課題以上	○地域課題に対応したプロジェクト課題の選定 ○四国農学連意見発表会に参加(12月、2名) ○中国四国農学連プロジェクト発表会に参加(1月、2名) ○実習後の実習日誌の指導(年間) ○次世代型ハウスを活用したプロジェクト実習(年間)	○学生の自主性を高める指導の実現 ○プロジェクト審査 2年生：園芸学科21名、畜産学科4名 ○四国農学連意見発表会で上位入賞(1年生) ○中四国農学連プロジェクト発表会で上位入賞(2年生) ○実習日誌による指導回数(各専攻課程1回/週) ○次世代型ハウス(高軒高)の利活用 ・環境制御の理論及び操作方法の習得指導(園芸学科1・2年生全員対象)	○プロジェクトテーマ決定1年生 野菜7月、果樹10月、花き5月、畜産12月 ○プロジェクト審査12/23 2年生25名 ○四国農学連意見発表会12/10 発表者1年生2名 3位入賞1名 ○中四国農学連プロジェクト発表会1/16,17 発表者2年生2名 ○実習日誌による指導回数 野菜・花き1回/月、果樹2回/月、畜産4回/月 ○次世代型ハウス(高軒高)の利活用 ・トマト2課題のプロジェクト学習を実施 ・環境制御の理論及び操作方法の習得指導(園芸学科1・2年生) ・高知農業高校、幡多農業高校の農大見学時にプロジェクト内容や環境制御について学生が説明 ・高知農業高校、幡多農業高校との合同授業10/27 【評価】 ●2年生全員がプロジェクト学習を完了できた。 ●農業高校2校とお互いのプロジェクトの理解が深まり、実践的な知識技術が向上できた。 【課題】 ●環境制御技術などの学習内容や環境データ通信機器などの充実が必要である。	B	○先進的な取り組みなどにより、生産性や品質向上に取り組んでいる。	B	○プロジェクト学習内容の充実
(3) 法人の求める能力の育成	○コミュニケーション力の向上 ○農業法人との連携	○法人就農者の確保	○法人での雇用就農に対応した講義の実施 ○法人とのマッチング ・法人説明会 ・インターンシップ ・先進農家等留学研修	○法人就農人数・割合 4名16% (R6:3名12%) ○労務管理の講義(社労士)(2年生) ○法人説明会開催(2年生25名) ○インターンシップ実施(1年生26名) ○先進農家等留学研修実施(2年生25名)	○法人就農人数・割合 1名4% (目標比25%)《前年度比33%》 ○労務管理講義2年生10/2,9 ○法人説明会：実施されず(農業会議主催) ○農業法人インターンシップ4法人2年生 ○インターンシップ1年生 1回目R7.5/13~26(4日間以内) 2回目R8.1/26~29、2/2~5 ○先進農家等留学研修10/15~11/26 ※農業法人での研修6法人 【評価】 ●農振センターと連携した農業法人研修に取り組むことができた。 【課題】 ●他県に比べ農業法人が少なく、また社員募集をしている法人も少ない。	D	○県内農業法人の求人募集が少なく、雇用就農は厳しいと思うが、継続して取り組んで欲しい。	D	○雇用就農に向けた農業法人の掘り起こしとインターンシップの強化

評価項目	課題	目標	具体的対策	具体的目標	実績 (内部評価)		外部評価		
					内部評価	外部評価			
(4) 各種資格・免許取得	○必要な資格免許の取得	○専攻課程に応じた免許取得者の確保 ○資格取得のための支援	○資格取得の必要性の周知、講義・補習実施【資格・免許等】 ・日本農業技術検定 ・フォークリフト運転 ・小型車両系建設機械(3t未満) ・大型特殊免許(農耕車限定)(選択) ・フラワー装飾(選択) ・家畜人工授精師(選択)	○合格者数 ・日本農業技術検定 3・2級延べ26名 ・フォークリフト23名 ・小型車両系建設機械(3t未満)26名 ・大型特殊免許(農耕車限定)10名 ・フラワー装飾3・2級7名 ・家畜人工授精師4名	○合格者数 ・日本農業技術検定3・2級:延べ13/31名 ※3級12/14名、2級1/16名 ・フォークリフト:30/30名 ・小型車両系建設機械(3t未満)特別教育1/16・17:26/26名 ・大型特殊免許(農耕車限定):5/6名 ・危険物取扱者資格乙4:2/10名、 " 乙5:1/1名 ・フラワー装飾技能3・2級:7/8名 ・家畜人工授精師:受験者なし 新 二等無人航空機操縦士:5/6名 【評価】 ●資格取得のための支援を行い、高い合格率を維持でき、資格を活かして就職にも繋がっている(市場など) 【課題】 ●一部合格率の低い資格もあり、合格に向けた更なる支援が必要である。	A	○様々な資格取得にがんばって取り組まれている。	A	○資格取得の充実
3 進路支援活動の強化 (1) 就職活動の支援体制の強化	○卒業後直ちに就農できる学生は少ない ○就職活動の意欲が低い学生が散見	○進路指導の徹底	○進路別カリキュラム(就農、雇用就農、就職、進学)の支援 ○三者面談の早期実施 ・2年生:5月実施 ・1年生:9月実施 ○就職試験対策 ・面接補習、基礎学力補習 ・履歴書作成指導 ○求人情報の把握と紹介(玄関前への掲示) ○個別に求人紹介 ○校内会社説明会の実施 ○高知大学への3年次編入に向けた進路指導の充実	○進路内定率 100% 25/25名 (R6:96% 24/25名) ○就農者数5名(R6:5名) ・親元1名(R6:2名) ・雇用4名(R6:3名) ○編入合格	○進路内定率(R8.2末時点) 92% 23/25名 活動中2名 ○三者面談の実施 2年生:5月、1年生:9月 ○就職試験対策(適宜) ○就農者数3名(R8.2末時点) 親元2名、雇用1名 ○農業関連企業等就職16名 ○高知県(農業職)2名、本山町1名 新 求人情報のデジタル化 (R8.3~ ※27卒業予定者) ○就職に向けたインターンシップ 2年生13名延べ18社 ○高知大編入合格者1名(R6:1名) 【評価】 ●学生個々の適性や希望に応じて進路を見つけることができている。 【課題】 ●早い時期からのインターンシップなどにより、ミスマッチのない就職活動に結びつけていく必要がある。 ●非農家出身の学生については、施設園芸などの独立自営就農に向けては課題が多い。	B	○非農家出身の学生が多いため、就農に向けた支援策など充実をお願いしたい。	B	○OB(就農者)による講演会の開催 ○会社説明会の開催とインターンシップの強化

評価項目	課題	目標	具体的対策	具体的目標	実績 (内部評価)	内部 評価	外部評価	外部 評価	
4 教職員の スキル アップ (1) 研修の 強化	○生産現場の課題をいち早く授業に取り入れて円滑な就農（雇用就農含む）に結び付けることが必要	○各種研修への参加 ○指導内容、方法の充実	○教官研修の受講 ○産地の栽培技術等の動向調査 ○職場研修実施	○教官のスキルアップ研修 ○西日本担当者会（野菜、花き、果樹、畜産） ○中国四国教務担当者会 ○試験研究及び産地視察調査	○各種研修会への参加 ・刈払機取扱作業研修（安全衛生教育）6/2 ・化学物質管理者及び保護具着用管理責任者教育 6/12 ・職場DX推進研修 8/8,26 ・小型車両系建設機械特別教 1/15,16 ・広報力向上研修「SNS実践モード編」2/20 ・二等無人航空機操縦士実技講習 2/25 ○西日本担当者会 果樹：広島県 8/7～8 ○試験研究及び産地視察調査 野菜 13回、花き 3回、果樹 5回 ○職場研修 人権問題職場研修 10/21、23 【評価】 ●新たな研修の場を設けるなど、教官のスキルアップに努めた。 【課題】 ●多様な入校学生に対応するため、更なるスキルアップが必要である。 ●SNS、デジタル、DXなどの活用に向けたスキルアップも必要である。	B	○教官のスキルアップに継続して取り組んでもらいたい。 ○インスタ配信などの広報活動については、学生のスキルアップにも繋げてもらいたい。	B	○教官の更なるスキルアップ